

## 1. 研究目的

左利きの友人・知人が日常で不便を感じていることから、子どもにとってはどれくらいの不便さを感じているのだろうかという考え、研究を始めた。

利き手の変更は大人になればなるほど困難であるため、日本を始め世界各国で利き手の変更を行わせることが多いとされている。一方で、右利きの子どもも最初からすべてを上手に扱えるとは限らないことが考えられる。

そこで利き手に関係なく使いやすい道具の提案を目的とする。

## 2. 調査内容(事前調査)

製品提案を行うにあたって利き手に関する文献調査を行った結果、次のことがわかった。

- ・日本人の約8～9割が右利きと
- ・大昔は人間も動物も右利きと左利きは半々だったが、人間は言葉を獲得し、言語や論理をつかさどる左脳が発達したことから右利きが次第に増えたと考えられている。
- ・左利きの子どもが生まれる可能性は、右利きの両親＝9.5%、右利きと左利きの両親＝19.5%(母親が左利きの場合可能性が高くなる)、左利きの両親＝26.1%
- ・出産前後など非常に幼い時に脳に傷を負ったりストレスを受けたりしたために左利きになるケースもある。

## 3. コンセプトおよびアイデア展開

本提案では、字を書くという行為を取り上げる。

字はほとんどの人にとって一生書いていくものであるため、子ども時代のストレスを軽減させることには大きな意味があると考えられる。

市場では利き手用のペン等が売られているのだが、現代では必修科目になっている習字に必要な筆は昔から形が変わっていない。

そこで子供たちがストレスを減らした状態で習字に臨むことで、字を書くことそのものを好きになってほしいと思い、持ち手(筆軸)を考慮した書道筆の提案を行う。

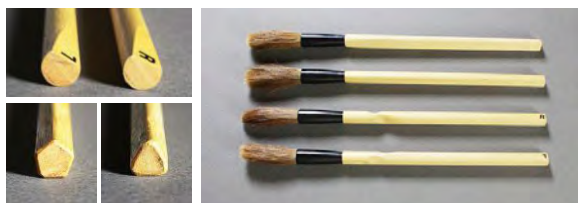


図1 試作品

## 4. 試作と検討

試作では筆軸の断面形状が三角形、五画形であるもの及び、左右利き手用に特化したものの3種類とした。(図1)

### ① 検証1 試作品と従来の筆の比較

使用者の話やアンケートから、従来の物より提案品の方が良い評価を得た。特に三角形と五画形の支持が多かった。

### ② 検証2 小学校教員と生徒による評価

検証1で評価された三角形と五画形の2作品で、書道を習い始める小学校3年生の生徒とその担任の先生に使用してもらった。そこから三角形の形をしたものが使用者・指導者共に使いやすいという結果が出た。同時に書道筆の正しい持ち方ができる形状ということが分かった。

## 5. 最終提案(作品)

検証時の『もう少し太い方が良い』という意見より直径12mm→15mmへと改善したものを作成。

また、使用時に安定感を出すことを目的として、筆内部の数カ所に重りを入れられるモデルを作り、重心の検討を作った。結果として筆軸の下位に重心を置くことにより安定することが分かった。(図2)

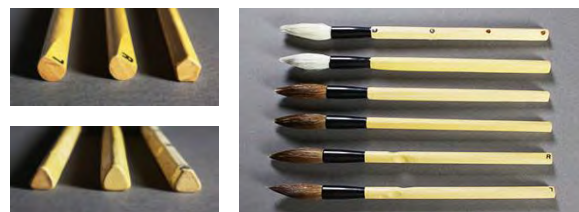


図2 最終作品

## 6. 今後の発展

より子供に興味を持たせるためには視覚的要素(色彩など)を取り入れる。また小学校の教材として使用の要望があったため、その実現化を図りたい。

## 文 献

- [1] ローレン・ミルソム、笹山裕子訳、“左利きの子 右手社会で暮らしやすくするために”，東京書籍，2009年
- [2] 渡瀬けん，左利きの人々，中経出版，中経文庫，2009年
- [3] クリス・マクナス，大貫昌子訳，非対称の起源 偶然か必然か，講談社ブルーバックス，2006年
- [4] デイヴィッド・ウォルマン，梶山あゆみ，「左利き」は天才？利き手をめぐる脳と進化の謎，日本経済新聞社，2006年
- [5] STABILO社HP，EASYcolors Left Hand  
<http://www.stabilo.com/au/p/stabilo-easycolors>  
<http://www.imaginarium.es/stabilo-easy-ergo-pink-l-50475.htm>